

「救急搬送実施基準」の見直しの方向性について

○これまでの経緯

昨年度までに救急医療協議会で検討した検証結果（搬送件数データ分析、医療機関・消防機関へのアンケート）や、新規事業である「搬送困難事例受入医療機関支援事業」及び「メディカルコントロール（MC）体制強化事業」に対応するため、受入に時間を要する病態の把握をすることを目的に救急搬送実態調査を実施することとなった。

○救急搬送実態調査概要

1 目的

消防機関が搬送した傷病者に関する医療機関の受入れの実態を調査することで、受入れに時間を要する病態の把握を行い、救急搬送実施基準の適切な改正に資することを目的とする。

2 調査対象事案

救急搬送時における照会回数4回以上の事案

3 調査対象期間

平成26年11月2日9時から11月30日24時までに医療機関の医師に引き継いだ調査対象事案について調査を行う。

4 調査方法

（1）消防機関への調査（11月中）

各消防本部において調査対象期間中の調査対象事案に関する情報を調査回答様式（消防本部回答用）に取りまとめ宮城県総務部消防課宛て電子メールで回答する。

（2）医療機関への調査（12月中）

宮城県総務部消防課において調査対象事案の傷病者情報を取りまとめ、受入医療機関に対し調査回答様式（医療機関回答用）を送付し、受入医療機関において調査項目記入後返信用封筒により回収する。

救急搬送実態調査回答様式

引継消防本部		引受医療機関			
傷病者情報					
引継日	引継時間	傷病者番号	生年月日	年齢	性別
傷病程度(該当するものに○を御記入ください)			確定診断名		
軽症 中等症 重症					
傷病者の情報(該当するものがあれば○を御記入ください)					
①飲酒 ②急性アルコール中毒 ③背景として精神疾患あり ④複数科目 ⑤認知症 ⑥過去に問題のある傷病者 ⑦要介護者 ⑧独居・身寄りなし ⑨自殺企図 ⑩住所不定 ⑪年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折					
特記事項があれば御記入ください					

参考：傷病者の情報に関する説明（受入困難事案患者受入医療機関支援事業に準拠）

受入困難事案	摘 要
①飲酒	飲酒の事実があり次によるもの。 ・観察困難（泥酔状態又は意識障害の判定が困難） ・問題行動（暴言を吐く、医師、看護師等の指示に従わない。）
②急性アルコール中毒	急性アルコール中毒の傷病者とは次によるもの。 ・主としてアルコールの摂取によって引き起こされた急性アルコール症状を呈し、医師が初診時に急性アルコール中毒と診断したもの。
③背景として精神疾患あり	精神疾患の既往があり次によるもの。（かかりつけ医療機関への搬送は除く） ・主症状として精神疾患の症状と疑われる傷病者 ・自傷等により外傷処置が必要な傷病者
④複数科目	複数科目に係る傷病者とは次による。 ・2以上の科目の異なる症状を呈している。 ・不定愁訴（症状があいまいで科目選定困難）
⑤認知症	認知症の情報がある又は強く疑われる傷病者で次によるもの。 ・会話が困難等でコミュニケーションが不能 ・問題行動がある傷病者（飲酒の問題行動と同様）
⑥過去に問のある傷病者	救急要請を頻繁に行う傷病者、又は病院等でトラブルを起こしている傷病者 ・救急隊収容依頼時の背景等の情報によるもの。 ・救急隊が把握していない場合は、医療機関で把握している情報で判断可
⑦要介護者	日常生活において介護が必要な傷病者 ・要介護認定者 ・非認定者であっても要介護認定者の同程度と判断される。
⑧独居・身寄りなし	一人暮らし・身寄りなし又は高齢者同士で生活している傷病者 ・生活保護等の公的支援を受けている。 ・公的支援を受けていないが、医療費の支払いにおいて公的支援が必要
⑨自殺企図	自殺企図の傷病者（疑い含む）で次による。（CPA患者は除く） ・薬物中毒 ・外傷処置が必要な傷病者
⑩住所不定	住所不定の傷病者で次によるもの。 ・ホームレス ・医療費の支払いにおいて公的支援が必要な傷病者
⑪年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折	年齢等の要因により長期入院が予想される脳疾患又は骨折の傷病者 ・亜急性の脳卒中 ・大腿骨頸部骨折 ・腰椎圧迫骨折等

○救急搬送実態調査結果

1 救急搬送実態調査実施概要

調査対象	照会回数4回以上の事案
調査時期	消防機関調査：平成26年11月中 医療機関調査：平成26年12月中
医療機関調査 回収状況	対象：73医療機関 回収：68医療機関（回収率 93.2%）

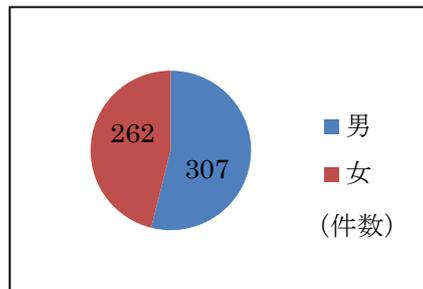
2 調査結果

(1) 男女別搬送件数

回答のあった事案は569件あり、そのうち男性が307件（54.4%）、女性が262件（46.0%）だった。

図表1 男女別搬送件数

性別	件数	構成比
男性	307	54.0%
女性	262	46.0%
合計	569	100.0%

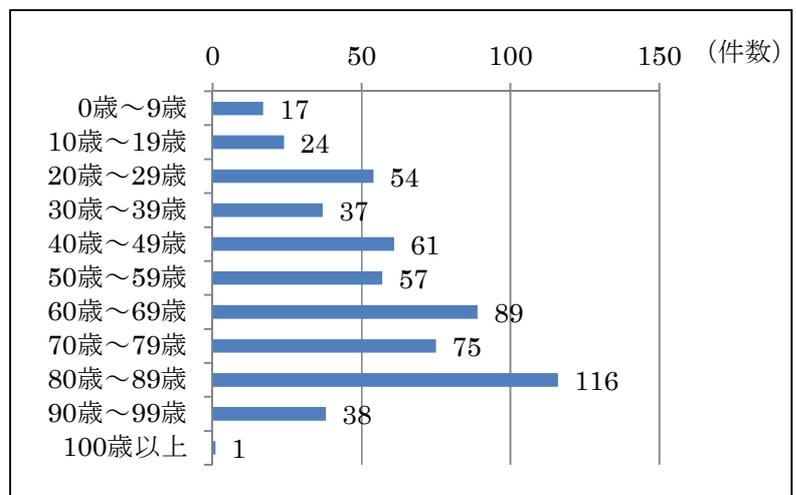


(2) 年齢構成別搬送件数

年齢構成別搬送件数では80歳代が116件（20.4%）と最も多く、次いで60歳代が89件（15.6%）、70歳代が75件（13.2%）となった。なお、最年少は1歳、最高齢は101歳で、平均年齢は59.1歳だった。

図表2 年齢構成別搬送件数

年齢構成	件数	構成比
0歳～9歳	17	3.0%
10歳～19歳	24	4.2%
20歳～29歳	54	9.5%
30歳～39歳	37	6.5%
40歳～49歳	61	10.7%
50歳～59歳	57	10.0%
60歳～69歳	89	15.6%
70歳～79歳	75	13.2%
80歳～89歳	116	20.4%
90歳～99歳	38	6.7%
100歳以上	1	0.2%
合計	569	100.0%

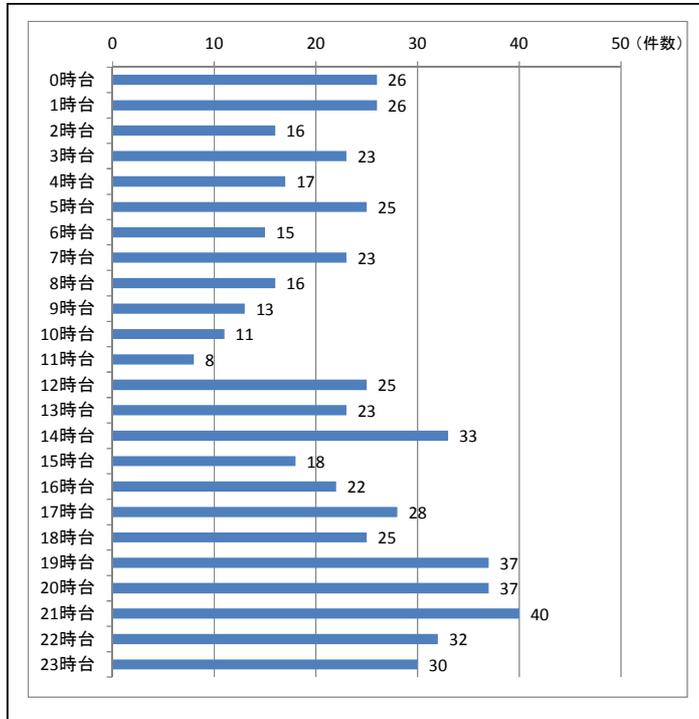


(3) 時間帯別搬送件数

時間帯別搬送件数では21時台が40件(7.0%)と最も多く、次いで19時台、20時台がそれぞれ37件(6.5%)となった。

図表3 時間帯別搬送件数

時間帯	件数	構成比
0時台	26	4.6%
1時台	26	4.6%
2時台	16	2.8%
3時台	23	4.0%
4時台	17	3.0%
5時台	25	4.4%
6時台	15	2.6%
7時台	23	4.0%
8時台	16	2.8%
9時台	13	2.3%
10時台	11	1.9%
11時台	8	1.4%
12時台	25	4.4%
13時台	23	4.0%
14時台	33	5.8%
15時台	18	3.2%
16時台	22	3.9%
17時台	28	4.9%
18時台	25	4.4%
19時台	37	6.5%
20時台	37	6.5%
21時台	40	7.0%
22時台	32	5.6%
23時台	30	5.3%
合計	569	100.0%



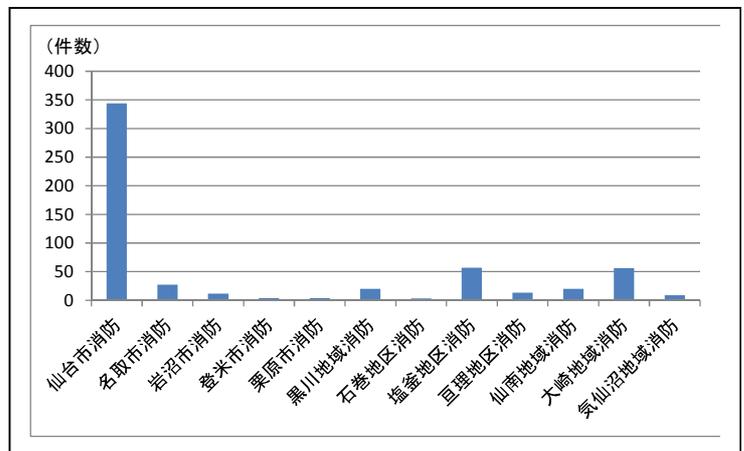
(4) 消防本部別搬送件数及び平均現場活動時間

消防本部別搬送件数では仙台市消防局が344件(60.5%)と最も多く、次いで塩釜地区消防事務組合消防本部が57件(10.0%)となった。

また、平均現場活動時間では亶理地区行政事務組合消防本部が48分と最長となり、次いで栗原市消防本部が47分だった。

図表4 消防本部別搬送件数等

消防本部名	件数	構成比	平均現場活動時間	平均照回数
仙台市消防	344	60.5%	0:44	5.9
名取市消防	27	4.7%	0:43	6.5
岩沼市消防	12	2.1%	0:33	5.9
登米市消防	4	0.7%	0:34	4.5
栗原市消防	4	0.7%	0:47	5.0
黒川地域消防	20	3.5%	0:42	6.0
石巻地区消防	3	0.5%	0:27	4.3
塩釜地区消防	57	10.0%	0:40	5.9
亶理地区消防	13	2.3%	0:48	6.1
仙南地域消防	20	3.5%	0:34	5.5
大崎地域消防	56	9.8%	0:33	5.3
気仙沼地域消防	9	1.6%	0:33	4.1
計	569	100.0%	0:41	5.8



(5) 疾患別

イ 搬送件数

(イ) 疾患別傷病者の内訳

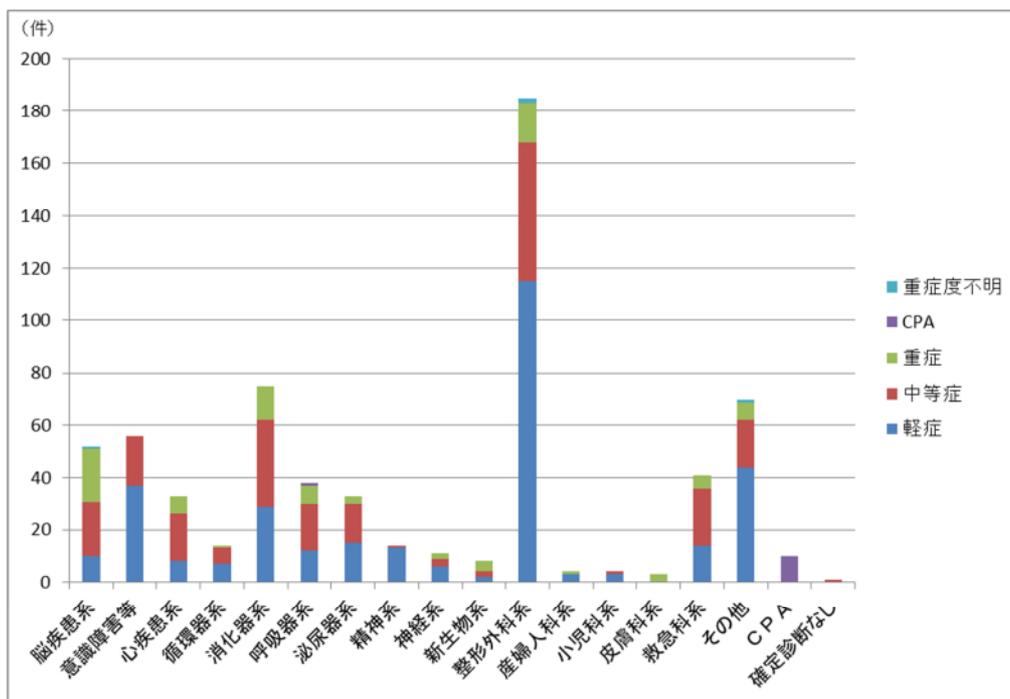
疾病別搬送件数は「整形外科系」が185件（28.4%）と最も多く、次いで「消化器系」が75件（11.5%）となった。

傷病程度別では、軽症では「整形外科系」が115件と最も多く、中等症では「整形外科系」が53件、重症では「脳疾患系」が20件と最も多かった。

なお、疾病別搬送件数は複数の疾患がある傷病者については重複集計している。

図表5 疾病別搬送件数

疾患名	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計	割合
脳疾患系	10	21	20	0	1	52	8.0%
意識障害等	37	19	0	0	0	56	8.6%
心疾患系	8	18	7	0	0	33	5.1%
循環器系	7	6	1	0	0	14	2.1%
消化器系	29	33	13	0	0	75	11.5%
呼吸器系	12	18	7	1	0	38	5.8%
泌尿器系	15	15	3	0	0	33	5.1%
精神系	13	1	0	0	0	14	2.1%
神経系	6	3	2	0	0	11	1.7%
新生物系	2	2	4	0	0	8	1.2%
整形外科系	115	53	15	0	2	185	28.4%
産婦人科系	3	0	1	0	0	4	0.6%
小児科系	3	1	0	0	0	4	0.6%
皮膚科系	0	0	3	0	0	3	0.5%
救急科系	14	22	5	0	0	41	6.3%
その他	44	18	7	0	1	70	10.7%
CPA	0	0	0	10	0	10	1.5%
確定診断なし	0	1	0	0	0	1	0.2%
合計	318	231	88	11	4	652	100.0%



※複数の疾患がある傷病者については重複集計

(ロ) 整形外科系傷病者の内訳

疾病別搬送件数のうち最も件数が多かった「整形外科系」の内訳としては、「打撲等」が61件と最も多く、次いで「骨折等」が47件となった。

図表6 整形外科系傷病者の内訳

内容	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計
打撲等	51	8	2	0	0	61
骨折等	15	22	8	0	2	47
挫創・裂創等	25	9	1	0	0	35
腰痛	5	1	0	0	0	6
捻挫	5	1	0	0	0	6
ヘルニア	1	4	0	0	0	5
頸髄損傷等	0	1	2	0	0	3
脱臼	3	0	0	0	0	3
頸椎症等	3	0	0	0	0	3
その他	7	7	2	0	0	16
合計	115	53	15	0	2	185

(ハ) 消化器系傷病者の内訳

疾病別搬送件数のうち2番目に件数が多かった「消化器系」の内訳としては、「胃炎・腸炎等」が29件と最も多く、次いで「イレウス」、「便秘」、「出血・静脈瘤破裂」、「潰瘍」がそれぞれ8件だった。

図表7 消化器系傷病者の内訳

内容	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計
胃炎・腸炎等	16	9	4	0	0	29
イレウス	1	6	1	0	0	8
便秘	5	3	0	0	0	8
出血・静脈瘤破裂	1	4	3	0	0	8
潰瘍	1	6	1	0	0	8
腹痛	3	2	0	0	0	5
虫垂炎等	0	1	3	0	0	4
その他	2	2	1	0	0	5
合計	29	33	13	0	0	75

(ニ) 重症で件数の多かった脳疾患系症病者の内訳

疾病別搬送件数のうち重症で最も件数が多かった「脳疾患系」の内訳としては、重症だけを見ると、「脳出血系」が12件と最も多く、次いで「脳梗塞系」が8件となった。

図表8 脳疾患系傷病者の内訳

内容	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計
脳出血系	1	6	12	0	0	19
脳梗塞系	2	10	8	0	1	21
一過性脳虚血発作	5	3	0	0	0	8
その他	2	2	0	0	0	4
合計	10	21	20	0	1	52

ロ 平均現場活動時間

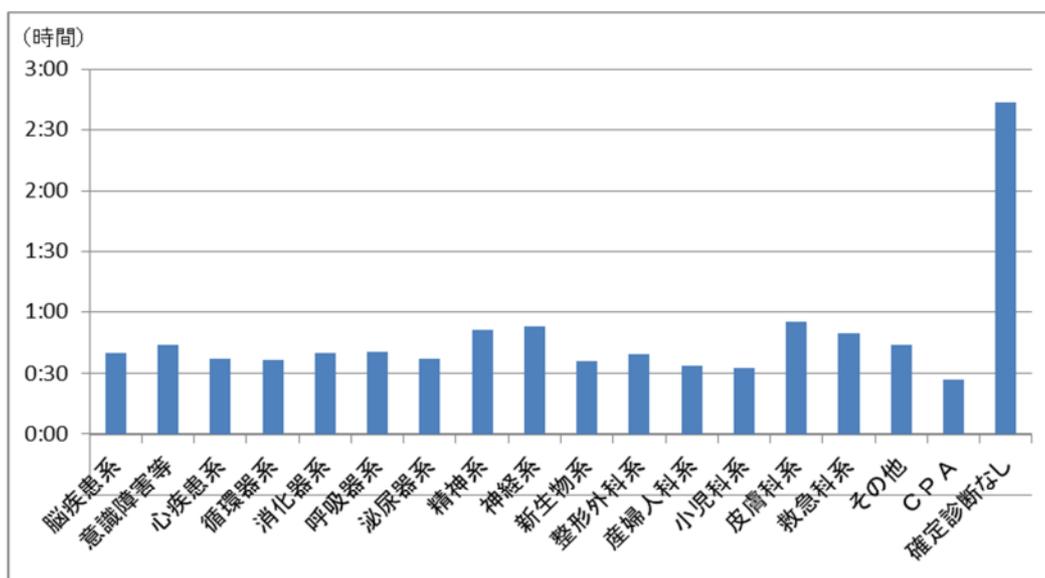
診断名がついた疾病のうち、平均現場活動時間では「皮膚科系」が55分と最長となり、次いで「神経系」が53分となった。

傷病程度別では、軽症では「神経系」が55分と最長となり、中等症では「精神系」が1時間、重症では「呼吸器系」が48分と最長となった。

なお、複数の疾患がある傷病者については代表的な疾患を集計している。

図表9 疾患別平均現場活動時間

疾患名	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	計	件数(参考)
脳疾患系	0:43	0:38	0:36	0:00	1:22	0:40	52
意識障害等	0:45	0:43	0:00	0:00	0:00	0:44	56
心疾患系	0:32	0:41	0:33	0:00	0:00	0:37	33
循環器系	0:30	0:51	0:16	0:00	0:00	0:36	14
消化器系	0:40	0:43	0:33	0:00	0:00	0:40	75
呼吸器系	0:38	0:41	0:48	0:17	0:00	0:40	38
泌尿器系	0:36	0:39	0:35	0:00	0:00	0:37	33
精神系	0:50	1:00	0:00	0:00	0:00	0:51	14
神経系	0:55	0:56	0:30	0:00	0:00	0:53	11
新生物系	0:47	0:25	0:39	0:00	0:00	0:36	8
整形外科系	0:41	0:35	0:38	0:00	0:57	0:39	185
産婦人科系	0:31	0:00	0:42	0:00	0:00	0:34	4
小児科系	0:36	0:21	0:00	0:00	0:00	0:32	4
皮膚科系	0:00	0:00	0:55	0:00	0:00	0:55	3
救急科系	0:53	0:48	0:46	0:00	0:00	0:49	41
その他	0:42	0:46	0:45	0:00	1:13	0:44	70
CPA	0:00	0:00	0:00	0:27	0:00	0:27	10
確定診断なし	0:00	2:44	0:00	0:00	0:00	2:44	1
計	0:42	0:42	0:39	0:26	1:07	0:41	652



※複数の疾患がある傷病者については代表的な疾患を集計

ハ 平均照会回数

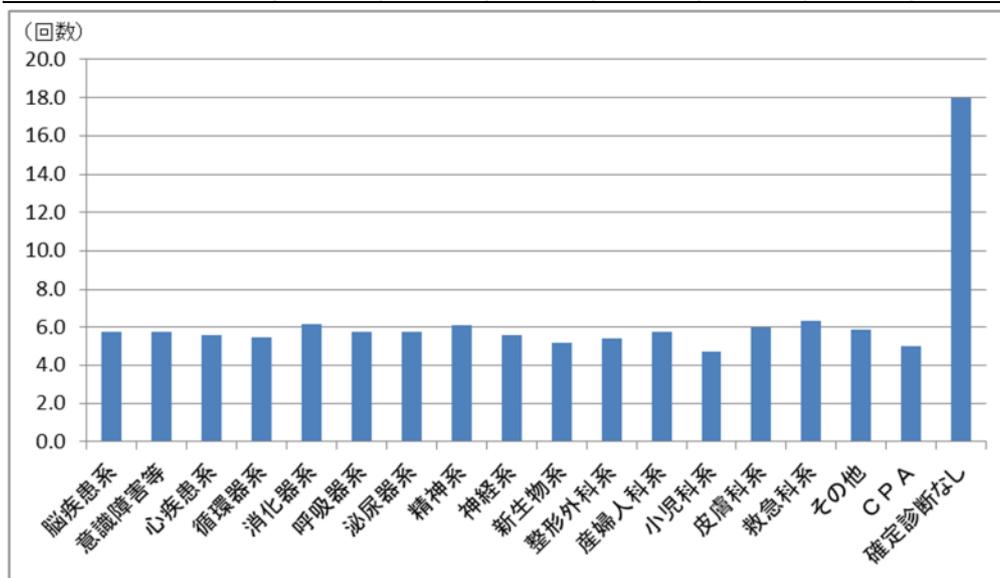
診断名がついた疾病のうち、平均照会回数では「救急科系」が6.3回と最も多く、次いで「消化器系」が6.2回となった。

傷病程度別では、軽症では「消化器系」が6.4回と最も多く、中等症では「精神系」が9.0回、重症では「産婦人科系」が9.0回とそれぞれ多かった。

なお、複数の疾患がある傷病者については代表的な疾患を集計している。

図表 10 疾患別平均照会回数

疾患名	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	計	件数(参考)
脳疾患系	5.8	6.5	4.9	0	6.0	5.8	52
意識障害等	6.0	5.2	0	0	0	5.8	56
心疾患系	4.2	5.7	6.3	0	0	5.6	33
循環器系	5.5	5.8	4.0	0	0	5.5	14
消化器系	6.4	6.6	4.6	0	0	6.2	75
呼吸器系	5.4	5.9	6.5	6.0	0	5.8	38
泌尿器系	5.4	6.1	6.0	0	0	5.7	33
精神系	5.8	9.0	0	0	0	6.1	14
神経系	5.2	7.0	4.0	0	0	5.6	11
新生物系	4.0	4.0	6.3	0	0	5.2	8
整形外科系	5.6	5.0	5.0	0	7.5	5.4	185
産婦人科系	4.7	0	9.0	0	0	5.8	4
小児科系	5.0	4.0	0	0	0	4.8	4
皮膚科系	0	0	6.0	0	0	6.0	3
救急科系	6.0	6.0	8.2	0	0	6.3	41
その他	5.6	6.3	5.7	0	11.0	5.8	70
CPA	0	0	0	5.0	0	5.0	10
確定診断なし	0	18.0	0	0	0	18.0	1
計	5.7	6.0	5.6	5.1	8.0	5.8	652



※複数の疾患がある傷病者については代表的な疾患を集計

(6) 背景のある傷病者情報別

イ 搬送件数

(イ) 背景のある傷病者全体の内訳

第6号受入医療機関確保基準に定める11項目のうち、いずれかの要因がある傷病者数は219人だった。

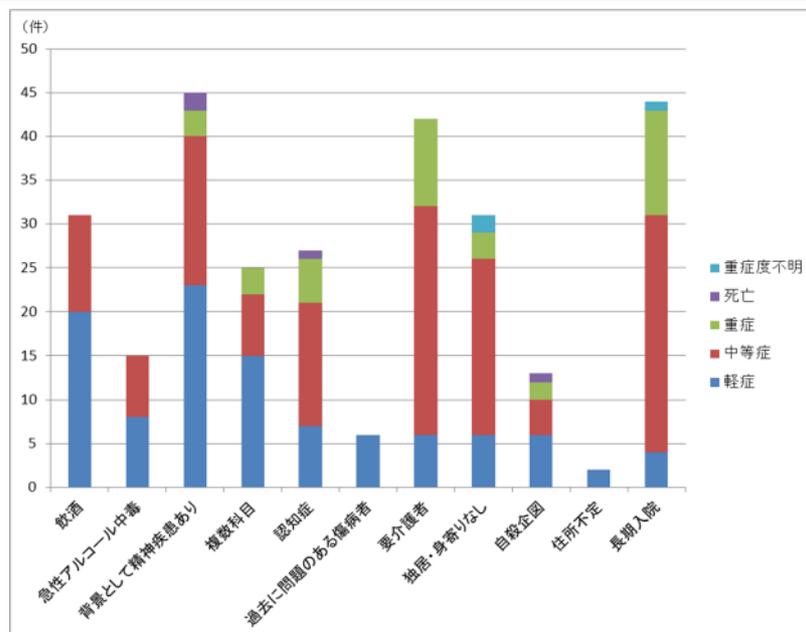
背景のある傷病者情報別搬送件数では「背景として精神疾患あり」が45件(16.0%)と最も多く、次いで「年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折(以下「長期入院」という。)」が44件(15.7%)となった。

傷病程度別では、軽症では「背景として精神疾患あり」が23件、中等症では「長期入院」が27件、重症では「長期入院」が12件と最も多かった。

なお、複数の背景がある傷病者については重複集計している。

図表11 背景のある傷病者全体の内訳

傷病者の情報	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計	割合
飲酒	20	11	0	0	0	31	11.0%
急性アルコール中毒	8	7	0	0	0	15	5.3%
背景として精神疾患あり	23	17	3	2	0	45	16.0%
複数科目	15	7	3	0	0	25	8.9%
認知症	7	14	5	1	0	27	9.6%
過去に問題のある傷病者	6	0	0	0	0	6	2.1%
要介護者	6	26	10	0	0	42	14.9%
独居・身寄りなし	6	20	3	0	2	31	11.0%
自殺企図	6	4	2	1	0	13	4.6%
住所不定	2	0	0	0	0	2	0.7%
長期入院	4	27	12	0	1	44	15.7%
合計	103	133	38	4	3	281	100.0%



※複数の背景がある傷病者については重複集計

※長期入院・・・年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折

(ロ) 背景のある傷病者のうち年齢の要因がある傷病者の内訳

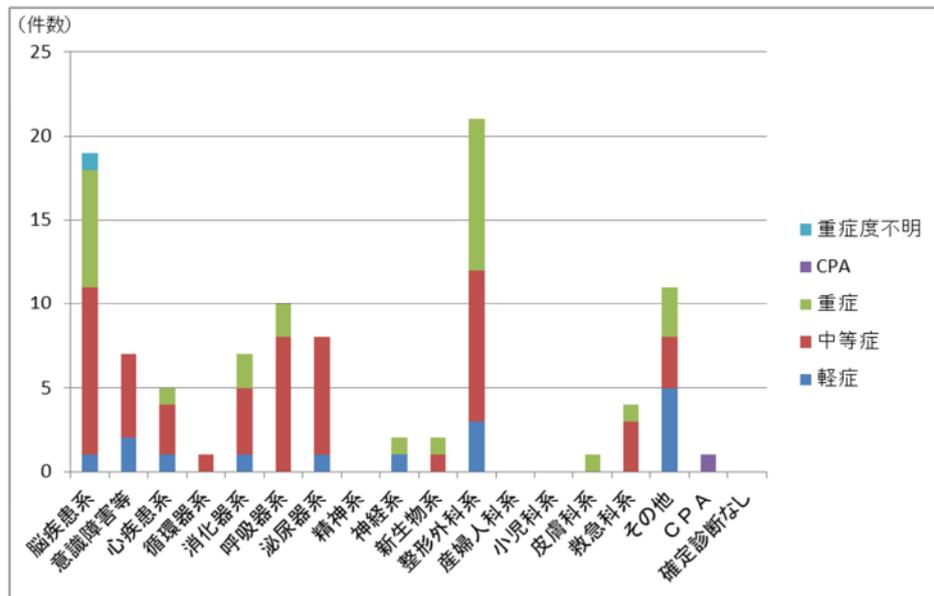
背景のある傷病者のうち、年齢の要因があると考えられる「認知症」、「要介護者」もしくは「長期入院」のいずれかの要因がある傷病者は83人だった。

これらの要因がある傷病者の疾患の内訳としては、「整形外科系」が21件（21.2%）と最も多く、次いで「脳疾患系」が19件（19.2%）となった。

なお、複数の疾患がある傷病者については重複集計している。

図表12 背景のある傷病者のうち年齢の要因がある傷病者の内訳

疾患名	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計	割合
脳疾患系	1	10	7	0	1	19	19.2%
意識障害等	2	5	0	0	0	7	7.1%
心疾患系	1	3	1	0	0	5	5.1%
循環器系	0	1	0	0	0	1	1.0%
消化器系	1	4	2	0	0	7	7.1%
呼吸器系	0	8	2	0	0	10	10.1%
泌尿器系	1	7	0	0	0	8	8.1%
精神系	0	0	0	0	0	0	0.0%
神経系	1	0	1	0	0	2	2.0%
新生物系	0	1	1	0	0	2	2.0%
整形外科系	3	9	9	0	0	21	21.2%
産婦人科系	0	0	0	0	0	0	0.0%
小児科系	0	0	0	0	0	0	0.0%
皮膚科系	0	0	1	0	0	1	1.0%
救急科系	0	3	1	0	0	4	4.0%
その他	5	3	3	0	0	11	11.1%
CPA	0	0	0	1	0	1	1.0%
確定診断なし	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	15	54	28	1	1	99	100.0%



※複数の疾患がある傷病者については重複集計

※長期入院・・・年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折

(ハ) 背景のある傷病者のうち精神疾患系の要因がある傷病者の内訳

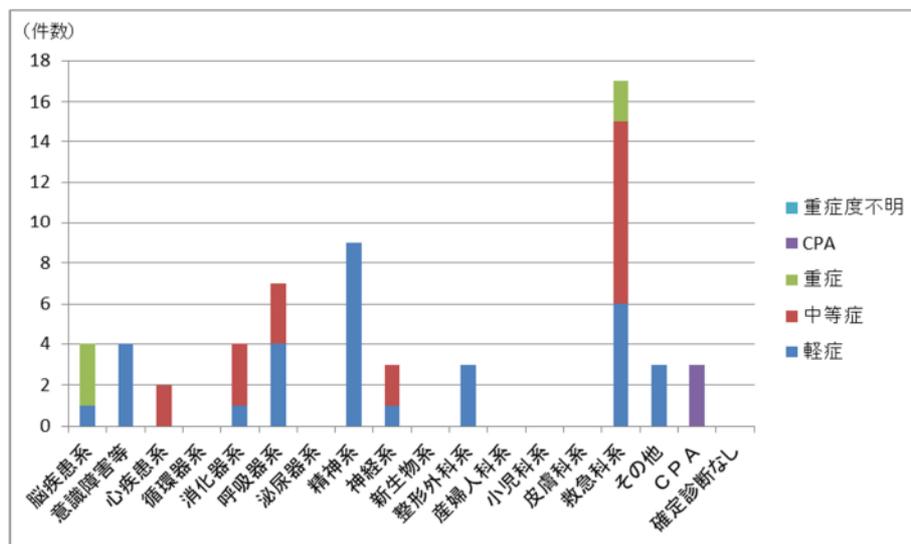
背景のある傷病者のうち、精神疾患系の要因があると考えられる「背景として精神疾患あり」もしくは「自殺企図」のいずれかの要因がある傷病者数は54人だった。

これらの要因がある傷病者の疾患の内訳としては、「救急科系」が17件(28.8%)と最も多く、次いで「精神系」が9件(15.3%)となった。

なお、複数の疾患がある傷病者については重複集計している。

図表 1-3 背景のある傷病者のうち精神疾患系の要因がある傷病者の内訳

疾患名	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	合計	割合
脳疾患系	1	0	3	0	0	4	6.8%
意識障害等	4	0	0	0	0	4	6.8%
心疾患系	0	2	0	0	0	2	3.4%
循環器系	0	0	0	0	0	0	0.0%
消化器系	1	3	0	0	0	4	6.8%
呼吸器系	4	3	0	0	0	7	11.9%
泌尿器系	0	0	0	0	0	0	0.0%
精神系	9	0	0	0	0	9	15.3%
神経系	1	2	0	0	0	3	5.1%
新生物系	0	0	0	0	0	0	0.0%
整形外科系	3	0	0	0	0	3	5.1%
産婦人科系	0	0	0	0	0	0	0.0%
小児科系	0	0	0	0	0	0	0.0%
皮膚科系	0	0	0	0	0	0	0.0%
救急科系	6	9	2	0	0	17	28.8%
その他	3	0	0	0	0	3	5.1%
CPA	0	0	0	3	0	3	5.1%
確定診断なし	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	32	19	5	3	0	59	100.0%



※複数の疾患がある傷病者については重複集計

※長期入院・・・年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折

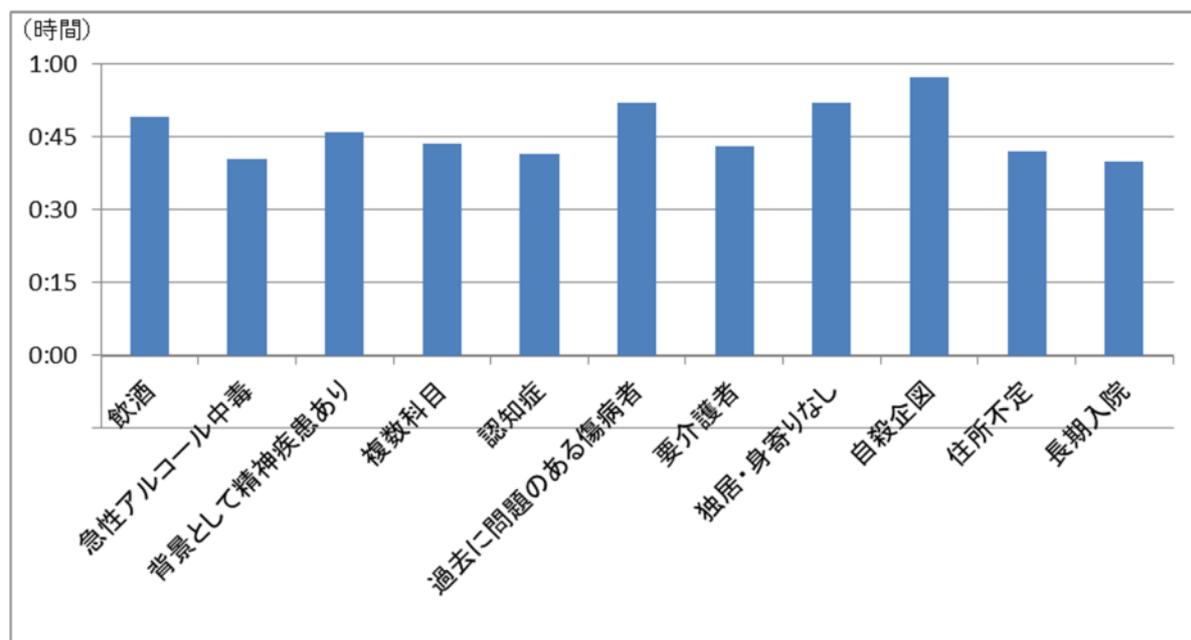
ロ 背景のある傷病者の平均現場活動時間

背景のある傷病者情報別平均現場活動時間では「自殺企図」が57分と最長となり、次いで「過去に問題のある傷病者」、「独居・身寄りなし」がそれぞれ52分となった。

傷病程度別では、軽症では「自殺企図」が1時間15分と最長となり、中等症では「独居・身寄りなし」が55分、重症では「複数科目」が49分と最長となった。

図表14 背景のある傷病者の平均現場活動時間

傷病者の情報	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	計	件数(参考)
飲酒	0:47	0:51	0:00	0:00	0:00	0:49	31
急性アルコール中毒	0:43	0:36	0:00	0:00	0:00	0:40	15
背景として精神疾患あり	0:43	0:54	0:33	0:00	0:00	0:46	45
複数科目	0:44	0:39	0:49	0:00	0:00	0:43	25
認知症	0:36	0:45	0:39	0:00	0:00	0:41	27
過去に問題のある傷病者	0:52	0:00	0:00	0:00	0:00	0:52	6
要介護者	1:12	0:35	0:46	0:00	0:00	0:43	42
独居・身寄りなし	0:40	0:55	0:47	1:00	1:05	0:52	31
自殺企図	1:15	0:49	0:47	0:21	0:00	0:57	13
住所不定	0:42	0:00	0:00	0:00	0:00	0:42	2
長期入院	0:46	0:36	0:43	0:00	0:00	0:39	44
計	0:46	0:45	0:44	0:20	1:05	0:45	281



※複数の疾病がある傷病者については1つの情報のみを集計

※長期入院…年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折

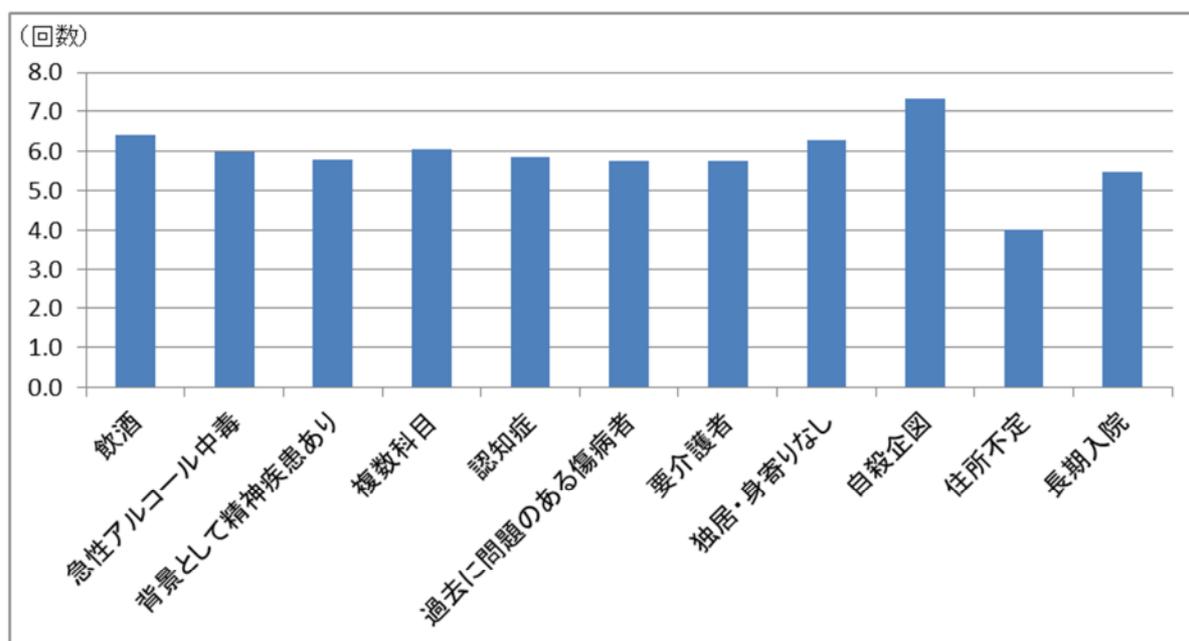
ハ 背景のある傷病者の平均照会回数

背景のある傷病者情報別平均照会回数では「自殺企図」が7.3回と最も多く、次いで「飲酒」が6.4回となった。

傷病程度別では、軽症では「要介護者」が9.3回と最も多く、中等症では「飲酒」が7.6回、重症では「自殺企図」が10.0回と最も多かった。

図表15 背景のある傷病者の平均照会回数

傷病者の情報	軽症	中等症	重症	CPA	重症度不明	計	件数(参考)
飲酒	5.8	7.6	0	0	0	6.4	31
急性アルコール中毒	6.5	5.4	0	0	0	6.0	15
背景として精神疾患あり	5.3	7.0	4.8	0	0	5.8	45
複数科目	6.3	5.6	5.7	0	0	6.0	25
認知症	5.1	6.7	4.8	0	0	5.9	27
過去に問題のある傷病者	5.8	0	0	0	0	5.8	6
要介護者	9.3	4.9	6.1	0	0	5.8	42
独居・身寄りなし	6.3	6.3	5.0	0	7.0	6.3	31
自殺企図	6.8	7.5	10.0	4.0	0	7.3	13
住所不定	4.0	0	0	0	0	4.0	2
長期入院	6.5	5.2	5.8	0	0	5.5	44
計	5.9	6.1	5.8	4.7	7.0	6.0	281



※複数の疾病がある傷病者については1つの情報のみを集計

※長期入院・・・年齢等の要因で長期入院が予測される脳疾患及び骨折

○調査から明らかになった課題への対応

今回の調査で明らかになった課題を踏まえ、救急搬送実施基準改正の検討を行う。

1 搬送件数の多い疾患等への対応

(1) 整形外科系、消化器系

従来の救急搬送実施基準では整形外科系、消化器系の疾患等はその他の病態として分類されており、個別の医療機関リスト等は策定されていなかった。今後、専門部会等の開催を通し、改善策の検討を行うこととする。

(2) 脳疾患系

脳疾患系の疾患については、現状の救急搬送実施基準でも「脳卒中疑い」として個別に基準が策定されている。今回の調査では重症の搬送件数が多く、現状の基準で対応できていない可能性があるため、専門部会等の開催を通し、改善策の検討を行うこととする。

2 背景のある傷病者への対応

背景のある傷病者別搬送件数を見ると、「背景として精神疾患あり」もしくは「自殺企図」が要因となる精神疾患系、または、「認知症」、「要介護者」もしくは「長期入院」が要因となる高齢者傷病者が多かった。

精神疾患系については精神科救急部会等で検討が行われているが、必要に応じて専門部会等の開催を通し、検討を行うこととする。また、高齢者傷病者についても専門部会等の開催を通し、改善策の検討を行うこととする。

3 その他

小児科系及び産婦人科系の疾患については、それぞれ小児医療協議会、周産期医療協議会が設置されているため、それらの場で必要に応じて救急搬送実施基準の見直しについて協議し、その結果を救急医療協議会へ報告する。

また、今回の調査においても、現場活動時間や照会回数などについては、地域毎に状況が異なり、特に仙台圏域ではそれぞれの数値が大きいことが明らかになった。このため、仙台圏域において二次救急医療機関を中心に医療機関と消防機関での意見交換の場を設定するなどして、地域における具体的な対応策を検討していくこととする。

4 検討行程（案）

時期	会議	検討内容
5～6月	救急搬送実施基準検討会	・詳細について検討すべき項目の決定 ・専門部会のメンバーの決定
5～10月	専門部会	・詳細について検討すべき項目について検討（整形外科系、消化器系等） ・救急搬送実施基準の改正案を策定し、救急搬送実施基準検討会へ報告
12月	救急搬送実施基準検討会	・専門部会からの報告を受け救急医療協議会へ報告すべき項目を決定
2～3月	救急医療協議会	・救急搬送実施基準改正について審議